国際自然保護連合日本委員会 2024年度事業報告
(2024年4月1日-2025年3月31日)

国際自然保護連合日本委員会

2024年度事業のハイライト

2024年4月22日(アースデイ)にネイチャーポジティブ宣言を発出。宣言にそった取組を展開した。

1. ネイチャーポジティブ日本イニシアティブに向けた準備

ネイチャーポジティブ日本イニシアティブ立ち上げに向け、政府、自治体、企業、ユース、NGO等多様な主体との連携を強化し、イベントの開催などを行った。また、ネイチャーポジティブに関するツールやガイダンスの和訳、国際的なネイチャーポジティブに関する情報の収集を実施し、世界との連携やネイチャーポジティブに関する関心を醸成し、ネイチャーポジティブ日本イニシアティブ立ち上げに向けた基盤作りを試みた。

2. ユース世代の支援

2023年度に策定したIUCN-J将来世代戦略の浸透と実行に注力し、ユースを巻き込むための新事業やプラットフォーム作りに取り組んだ。日本で開催された生物多様性国際ユース会議とも連携し、運営への支援や日本参加者の旅費支援を実施し、その成果をフォローアップイベントである「自然と未来フォーラム」で活かし、国際的な動きを日本ユースへ広く発信した。また、ユースの国際会議への派遣も引き続き支援し、12名の旅費支援をした12名含む計16名の国際会議参加支援を行った。

3. プログラムの有料化や寄付拡大を通じた資金調達

IUCN-Jメンバーの活動をさらに支援し、ネイチャーポジティブ社会の実現を促進するために、事務局運営や事業体制の強化に取り組んだ。プロボノや委託、ボランティア等の多様な力を借りることで、事務局及び事業の拡大を試みた。寄付については、昨年度に引き続きSNS等での発信を通じた継続支援者の獲得に加え、ユース世代をターゲットとした継続寄付のコミュニティを開設した。国際会議における発信に企業協賛を獲得するなどにも初挑戦・達成することができた。

2024年度の事業運営方針

1. 団体運営の基本方針

- 1.1. 継続的な事務局運営業務の改善
- 1.2. 事業や事務局の成長を見越した支援獲得の推進
- 1.3. 会員団体や外部の協力を追求し、ネイチャーポジティブを実現するIUCN-J団体運営を超えたガバナンスを模索する
- 1.4. 2025年度からの運営を担う役員・運営委員の選出・移行を準備する。
- 1.5. 一般社団法人国際自然保護連合日本委員会との機能分担を進める

2. 事業の基本方針

- 2.1. IUCN2030プログラム及びネイチャーポジティブの実現に向けた事業の構築
- 2.2. GBF、生物多様性国家戦略の実施に必要な2030ネイチャーポジティブへの公正な移行(*)を支える要素を、多様な専門性を支える会員・事務局・専門委員が中心に、ネイチャーポジティブに貢献する他のアクターと作り上げる。
- 2.3. 上記事業のためのネットワークの構築と運営体制を整える
- 2.4. ネットワーク構築に関して、特に、将来世代に関して、将来世代戦略に則り、注力する。

3. 活動財源の基本方針

- 3.1. 経団連自然保護基金
「日本版ネイチャーポジティブイニシアティブの立ち上げと東アジア展開」事業(事業1年目)を活用。
- 3.2. 地球環境基金
「日本版ネイチャーポジティブイニシアティブの立ち上げと展開」事業(事業1年目)を活用。

- 3.3. 寄付・協賛など
活動財源の多様化に向け、寄付・協賛などを呼びかける。継続支援の拡大について、前年度よりもさらに規模を高める取り組みを行う。
- 3.4. 受託事業など
J-GBF 支援事業への参画に加え、IUCN-J 事業に資する企業等からの受託事業、会員との協働事業など多様な資金源を模索する。
- 3.5. 繰越金活用
将来の活動財源拡大のために繰越金を活用する

1. 事業計画

1.1. IUCNのビジョン・ミッションに共感し、活動する団体・個人の増加

1.1.1. IUCN-J会員の拡大

- 正会員、サポーター会員やユース会員の拡大を目指しました。ウェブサイトや関東環境教育ミーティングにてポスター出展等の発信活動の結果、サポーター会員として、一般社団法人 ICERC Japan、一般社団法人UMITO Partners、Rooting Our Own Tomorrows、一般社団法人里山生物多様性プロジェクトの4件、ユース会員として株式会社アースネイジ、NatureLit Japanの2件の入会がありました。
- 団体間の連携を促進するため、団体紹介の場を設け、2月26日に一般社団法人Change Our Next Decade活動紹介をオンラインの形式で行った。
- 専門家会員の拡大についても取り組みました。専門家会員制度に関して関係者との意見交換や情報収集を行い、IUCN-J会員・専門委員会勧誘パンフレットを作成しました。

1.1.2. 将来世代戦略の普及・浸透と実施

- IUCN-J将来世代戦略実施を担うグループ(将来世代戦略部)を立ち上げ、[IUCN-J将来世代戦略デザイン版](#)の作成、公開しました。IUCN-Jメンバー向けIUCN-J将来世代戦略の解説を実施するとともに、「ラムサール・ネットワーク日本 15周年記念講演会(6月15日)」にて解説講演を実施しました。成果の一部は、IUCNアジア自然保護フォーラムや生物多様性条約COP16でのIYCB成果、IUCN-J将来世代戦略の展示を行いました。
- 生物多様性国際ユース会議(IYCB。8月25-31日開催)への4名の日本ユース参加旅費支援や運営補助を実施し、7件の国際会議レポートを発信しました。
- フォローアップイベントとして、IUCN-Jユース会員である緋熊と黒潮と協力し、10月12日から13日にかけて自然と未来フォーラムを山梨県南アルプス市で開催しました。学生から若手社会人まで、全国各地から65名のユースが集い、ユース間の新たな連携が生まれました。
- LINEユースプラットフォームを作成(2025.03時点。116名)しつつ、より意欲の高く交流を希望する世代向けに有料コミュニティサイト”Nature+”を立上げ、運用を開始した(2025.03時点、13名)。

1.1.3. 発信の強化・組織基盤の強化

- ウェブサイトコンテンツ追加を行いました。
 - [昆明・モンリオール ターゲットについて](#)
 - [ネイチャーポジティブとグリーンウォッシュ](#)
- 広報体制強化を、ひとしづく株式会社の支援を受けながら実施しました。IUCN-Jのロジックモデルやファンドレイジング計画を作成し、ターゲットインタビューを実施し、コミュニティサイトNature+の立上げを行いました。(将来世代戦略の普及・実施参照)
- 10月3日にイルカwith Friendsコンサートが開催され、コンサートでの登壇と展示を行いました。
- 株式会社Membersのプロボノ支援を受け、Instagramの投稿改良が行いました
- 新規役員体制が会員総会にて選出されました。

1.2. ネイチャーポジティブ日本イニシアティブ

1.2.1. Nature Positive InitiativeやIUCN、CBD等の動向等を活かした戦略構築とネット

ワークづくり

- 5月22日生物多様性の日にwebサイトへ「[解説コーナー](#)」を設け、ネイチャーポジティブやグリーンウォッシュに関するページを公開した。
- [GBF普及版](#)をJ-GBF共通ツールに位置づけ(制作事務局がIUCN-J)、発表した。
- [Nature Positive for Business](#)の日本語版を発行した
- ネイチャーポジティブ日本イニシアティブ立ち上げ準備会を3回開催するなどの検討を続け、State of Nature勉強会(3月4日)を実施し、779名の参加登録があった。この機に、ネイチャーポジティブ日本イニシアティブの立ち上げ宣言を行った。

1.2.2. 国立環境研究所との協働

- ランチレク「環境保全を促進するためになにができるか: 世代間協力に関する心理学の諸研究」等を開催した。IUCNメンバー団体の事業に対して、国立環境研究所の研究側面からの支援について検討や、会員と国立環境研究所研究員とのマッチングを行った

1.2.3. 会員間での報告会や意見交換会・研修の実施

- IUCN-Jメンバー間の情報や人の交流を目指す IUCN-J Member's Dayを2回(4月19日と12月24日に)開催し、「NGOの組織運営」に焦点を当てるなどテーマ設定を行った交流会も試行しました
- ネイチャーポジティブスクールを試行(1回)、本番6回実施し、延べ467名が参加(対面・オンライン含む)しました。COP16の機会を活かし、スクールで話題となったサイトへの現地視察(参加人数12名)も実現しました。
- WCCに向けたブース確保・サイドイベントの企画・モーションの共有を行った
- メンバーズ株式会社のプロボノ協力のもとインフォグラフィック作成研修を下記日程とテーマで開催した
 - 第1回:1月31日 インフォグラフィック入門
 - 第2回:2月7日 生成AIプロンプトの作成方法
 - 第3回:2月14日 インフォグラフィックのプロンプト作成
 - 第4回:2月21日 Canvaを用いたインフォグラフィック作成実践

1.2.4. 協働型事業構築またはその支援を行う

- に戦略助成企画検討チームと意見交換会を実施し、地球環境基金戦略助成事業のコンセプト作成と申請が完了した。
- **Rooting Our Own Tomorrows**と協働でメディアイニシアティブを開始した。下記の取組を実施した。
 - 野生動物のメディア取り扱いガイドライン制作
 - アドバイスサービスの展開(有料事業としての模索)
 - COP16でのブース出展・広報
 - パタゴニア助成の獲得
 - WCCでのワークショップを企画提案

1.2.5. アジアや日中韓 IUCN 会員との連携を構築する

- 9月3日-5日にかけてタイ・バンコクで開催されたアジア地域自然保護フォーラムへ参加・派遣を行った。また、IUCN日本委員会のブースの出展や日韓で企業連携に関するサイドイベントを実施した。
- アジア地域委員会への役員参画 副会長名取洋司氏が選出された。
- 11月20日-22日に中国・上海にて、IUCN日中韓三か国会合が開催された。道家哲平氏(IUCN-J事務局長)、渡邊綱男氏(IUCN-J会長)、星野一昭氏(IUCN理事)が参加した。
- IUCN事務局の来日を機に、IUCN-Jメンバーとの意見交換会(3月6日)を開催した。

1.2.6. 国際会議などへの参加を通じた、国際的情報収集・情報発信の実施

- 8月24日にCBD事務局長との意見交換会、3月6日にIUCN事務局との意見交換会を実施した。
- 下記国際会議での情報収集と発信を行った

<5月14日-29日 SBSTTA26/SBI4>

- 旅費支援派遣者:IUCN-J 道家哲平氏
- 国際会議レポート18件
- 6月12日 報告会

<8月25日-31日 生物多様性国際ユース会議>

- 旅費支援派遣者:IUCN-J稲場一華氏
- その他派遣者:COND伊藤志帆氏、鈴木和子氏、佐藤成希氏、安田高祐氏
- 国際会議レポート7件

<9月3日-5日 IUCN Asia RCF>

- 旅費支援派遣者:IUCN-J 道家哲平氏(メンター)、IUCN-J 稲場一華氏(メンティー)、COND坂浦友珠氏(メンティー)、COND多計和真氏(メンティー)、田村双葉氏(メンティー)
- その他派遣者:筑波大学Danmeng CAI氏、大久保澄氏
- 国際会議レポート16件
- 10月2日 報告会

<10月16日-11月1日 SBI5/COP16>

- 旅費支援派遣者:IUCN-J 道家哲平氏(メンター)、IUCN-J 稲場一華氏(メンティー)、COND豊島亮氏(メンティー)、Sarma Ragini氏(メンティー)、安家叶子氏(メンティー)
- その他派遣者:筑波大学Sun patricia氏、横山廉氏
- 国際会議レポート31件
- 11月15日 報告会

<11月20日-22日 日中韓三か国会合>

- 旅費支援派遣者:IUCN-J 道家哲平氏、自然研 渡邊綱男氏
- その他派遣者:星野一昭氏
- [20241121_日中韓三か国会議](#)

<2月25日-27日 COP16再開会合>

- 旅費支援派遣者:IUCN-J 道家哲平氏
- 国際会議レポート7件
- 3月18日 報告会

実績

<国際会議事前レク>

- 企業動向やアジア地域フォーラムについて情報共有
- IUCNビジョン・ミッション
- IUCNビジョンやミッションの意見交換
- IUCN-J事業4半期報告と今後
- 海に関わるIUCN専門委員会の取組
- IUCNアジア地域フォーラム事前情報共有
- SBSTTA26
- 生物多様性条約を学ぶ
- State of Nature指標
- Change Our Next Decade活動紹介
- 国際的なデータとその活用勉強会

団体としての報告

1. 加盟団体

2025年3月31日時点で、国際自然保護連合(IUCN)に加盟している日本の団体は、国家会員1(外務省)、政府機関会員1(環境省)、非政府組織18の計20団体となりました。

IUCN日本委員会(IUCN-J)加盟団体においては、サポート会員12団体、ユース会員4団体を合計し、計36団体となります。

2. 会議開催

IUCN-Jの会員団体・協力団体を中心に行った会合は下記の通り。

運営委員会:6月4日、2月3日、2月7日、3月6日

会員総会や会員会合:6月28日、3月25日

3. 外部委員会等への参加

- J-GBFへの参画
 - 総会・幹事会・企画委員会・支援実行委員会・行動変容WG
- 環境省ネイチャーポジティブ経済研究会
- 環境省令和6年度海域OECMの具体化にかかる勉強会
- JBIC環境ガイドライン担当審査役

担当:道家哲平氏(日本自然保護協会・IUCN-J事務局長)

6. 主催・共催・後援・推薦事業

2024年度、IUCN-J主催・共催・後援等を行った取り組みは表1の通り。

表1 主催・共催・後援事業

主催／共催等 事業			
No	日付	事業名	種別(主催／共催)
1	8月18日	IUCN Members' Day	主催
2	6月12日	SBSTTA26/SBI4参加報告会	主催
3	11月25日	生物多様性条約COP16報告会	主催
4	6月13日	ネイチャーポジティブ×ビジネス入門講座	主催
5	9月13日	IUCN-Jネイチャーポジティブスクール 連続講座 第2回	主催
6	9月25日	IUCN-Jネイチャーポジティブスクール 連続講座 第3回	主催
7	10月2日	IUCNアジア地域フォーラム報告会	主催
8	10月7日	IUCN-Jネイチャーポジティブスクール 連続講座 第4回 Road to COP16編	主催
9	10月12日-13日	自然と未来フォーラム	共催
10	11月15日	IUCN-Jネイチャーポジティブスクール 連続講座 第5回 COP16現地参加者による参加報告編	主催
11	2月26日	COP16再開会合インスタライブ	主催

12	2月27日	「生物多様性 × 気候変動」— 国際会議に参加した若者たちの声	共催
13	3月4日	マルチセクターで考えた自然を測る共通指標案が発表！—最前線で活躍する専門家たちと実際の指標作成者から学ぶ—	主催
14	3月18日	IUCN-Jネイチャーポジティブスクール 連続講座 第6回 COP16-2現地参加者による参加報告編	主催
後援/推薦事業			
1	2024	湿地のグリーンウェーブ	ラムサールネットワーク日本
2	2024	日本自然保護大賞2024	日本自然保護協会

7.謝辞

国際自然保護連合日本委員会の事業の運営にあたり、下記企業より、ご寄付をいただきました。また、個人でも継続的なご支援をくださる方が拡大しております。暖かいご支援をいただいた皆様に、感謝申し上げます。

株式会社 良品計画
株式会社 シール堂
株式会社 ワコール
株式会社 トリナス
株式会社 AQUA

また、プロボノによる人的/知的支援を下記企業よりいただきました。

株式会社PwCコンサルティング合同会社
株式会社メンバーズ
株式会社博報堂